

研究協力をお願い

「重症心身障がい児施設「すこやか」における短期入所の実態と課題」

の研究について

1. 研究（調査）の目的と概略

重症心身障害児数は年々増加しており、医療的ケアを受けながら在宅に移行する重症心身障害児も増加しています。岐阜県においても、2019年6月～2020年2月に行われた在宅重度障がい児者等実態調査結果報告書¹⁾によると、岐阜県の在宅重症心身障がい児者は445人で、そのうち医療依存度の高い超・準超重症児者は77人（17.3%）でした。超・準超重症児者では、介護者が長期にわたり相当な身体的・心理的負担を抱え、日常的な外出困難や慢性的な睡眠不足といった問題を抱えているのが現状です。

短期入所事業を行う医療機関は増加していますが、宿泊可能な医療型の短期入所、さらに医療ケア度に制限を設けることなく、すべての重症心身障がい児者を受けることが可能な施設は岐阜県の中でも限られています。

重症心身障がい児施設「すこやか」の短期入所が開設して5年が経過しました。

本調査の目的は、短期入所の利用状況と、体調悪化による早期退所の症例を調査することで、短期入所の安全性を高めるための対策と、県内における当施設の役割と課題について検討し、今後のすこやかにおける短期入所の向上を期待します。

2. 研究（調査）の方法

2016年7月開所から2022年3月に重症心身障がい児施設「すこやか」短期入所の契約を行った患者121名を対象とします。年齢・主病名・人工呼吸器、気切、経管栄養、てんかんの有無を調査します。施設の予約利用状況を集計し、早期退所した症例について退所理由や患者背景を診療録より後方視的に検討します。

3. 研究（調査）の参加施設

岐阜県総合医療センター

4. 調査期間

調査期間（2016年7月から2022年3月）

5. 調査の対象となる患者様

重症心身障がい児施設「すこやか」短期入所の契約を行った患者 121 名を対象とします

6. この調査への協力は任意です

本研究は、患者様の診療記録から得られた情報のみを使用する「後ろ向き観察研究」と呼ばれるもので、患者様に新たな診療や検査を強いるものではありません。研究結果は、個人が特定できないように匿名化して管理し、個人情報を保護します。

本研究は、学会での発表や学会誌への投稿を予定しています。

データのご使用をお断りになる場合には直ちに情報の利用を停止いたしますので、ご遠慮なくお申し出ください。

7. お問い合わせ先

本研究は、岐阜県総合医療センターの倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得ています。お問い合わせ先は下記です。

岐阜県総合医療センター小児療育内科 所訓子 電話 058-246-1111

8. 参考資料

1) 「岐阜県在宅重度障がい児者等実態調査結果報告書」令和 2 年度 岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/216769.pdf> [閲覧日：2022.8.25]

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/216191.pdf> [閲覧日：2022.8.25]

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/216192.pdf> [閲覧日：2022.8.25]